

編集後記

今号もこのように『哲学の探求』発行の運びとなりましたこと、たいへん嬉しく、またありがたく感じます。電子媒体での発行も、次第に周知されるようになり、より多くみなさまに手にとっていただけるものとなっていると存じます。

今号の編集にあたっては、私の作業の遅延のみならず、作業ミスのため、同じく編集担当の高取さん、他の運営委員の方々、および執筆者の方々に多大なるご迷惑をおかけしました。みなさまのご尽力により、なんとか作業を進めることができましたこと、この場をお借りして、謝罪および感謝いたします。しかし、今号を通して、来季はより『哲学の探求』に貢献させていただく次第であります。

今号においても、多くの方に執筆いただくこととなりました。また、お忙しい中、レクチャラーを引き受けてくださった石田先生、大河内先生にも執筆いただきました。（また今号においては、元運営委員の榎野さんにも引き続きご協力いただきましたこと、感謝いたします。）さらには、ありがたいことに、今号も多くの方が編集作業に協力くださいました。今号発行に関わってくださったすべての方々に、運営委員一同、心より感謝申し上げます。

『哲学の探求』編集担当 岡城 真代

今号では、編集上の事情から、パートごとの段階的公開という形態をとることとなりました。一部の論文については例年よりもかなり公開が遅れてしまったことについて、お詫び申し上げます。ただ、原稿の集まり具合などの状況に応じてこのように柔軟な対応が可能となるのは、電子媒体で発行することの利点だと言えるでしょう（もちろん本来であれば、一度に全体を公開できるのが望ましくはありますが）。電子化から数年が経ちましたが、編集のノウハウ

もだいぶ確立されてきたように思います。ここ何号かの編集資料を参考にして、次代以降の編集担当の方がより効率的に作業していただけるようであれば幸いです。

執筆者、編集協力者、他の運営委員のみなさまには、心からお礼の言葉を述べさせていただきます。本号完成のためにご協力いただき、本当にありがとうございました。そしてまた、もう一人の編集担当である岡城さんにも、留学中のお忙しいところ多くの作業を担当していただいたことを、深く感謝いたします。岡城さんがいらっしゃらなければ、本号が完成することはけしてなかったでしょう。

『哲学の探求』編集担当 高取 正大